

## 平成17年第2回 野生生物の生物学的知見研究班会議 議事要旨

I 日時：平成18年4月27日（木）14：00～16：30

II 場所：環境省第一会議室

III 出席者

研究班員：門上希和夫、須之部友基、田辺信介、椿 宣高、坪田敏男、花里孝幸（班長）、中村正久、米田久美子

検討委員：岩松鷹司、倉本 満、村田幸雄、渡邊 信（座長）

オブザーバー：川嶋之雄（敬称略）

事務局：上家環境安全課長他

IV 議題：

- 1 平成17年度 ExTEND2005 野生生物の生物学的知見研究結果について
- 2 その他

V 議事要旨

(1) ExTEND2005における野生生物の生物学的知見検討会と研究班の位置づけ、今回新たに報告される2課題の位置づけについて事務局から説明が行われた。

(2) 平成17年度研究課題である「課題1. 魚介類におけるダイオキシン類蓄積量の比較」「課題2. POPs及び候補物質による日韓沿岸及び近海の野生生物汚染の実態解明」「課題3. 雌雄同体性魚類の性の可塑性と社会構造に関する研究」「課題4. 魚や水草の放流や移入による湖沼生態系かく乱の実態とそのメカニズムの解明」に加え、基盤的研究において実施されたフージビリティースタディのうち、本研究班の調査対象と重複する2課題が追加課題として報告され、この内容について各研究代表者が発表を行い、審議が行われた。

### 【委員からの主な意見】

- ・すべての研究課題が水生生物や水の生態系に関するものであり、将来的に陸上のものも考えた方が良い。
- ・内分泌かく乱化学物質の影響、基本的な生物学的知見、どちらを視野に置くのか研究班の方針が良くわからない。
- ・モニタリングをどの枠組で実施するかどうかの問題は今後議論すべきだが、本来望むところは、実際、自然界でどんな現象が起き、その中から将来的に化学物質によると思われるものを抽出する、というような知見を集めていくところだ。
- ・野外の生物現象については、金目的ではなく興味を持ってやっている人が多い。
- ・遺伝については実験ができるモデル生物では研究できるが野生生物ではできない。そのギャップを埋められるような研究ができると良い。

以上